



2009.2.7 堅信式

私達の誇りとするもの

助任司祭ナジ・エデルベルトウス

今年1月のある日曜日に日本の新潟県のある町で墨ぬり祭りがおこなわれました。今年も幸せに暮らす様に願いながら司祭の役を持った若い女性が沿道にいる人々の顔を墨で塗ります。他の新年を迎える喜び祭りと同じように多くの人が喜んで参加しました。儀式は罪の赦し儀式と関係なくむしろ魔よけの意味を指摘します。墨は竹炭であり、新しい酒に解かせられたそうです。墨を塗る行動を見ると灰の水曜日のことを思い出します。

灰の水曜日の灰はイエス様を喜び迎える枝の主日に使った枝で作られます。あの灰は私達のちりで作られた体を思い出せるものであり神の前に正義を守り謙虚に歩むように勧めを指摘するものです。「ミカ6・8」。創造主から離れて高慢に生きる事は木から離れた枝のように死につながるから昔から神様は預言者によって人間が改心するように誘われました。

灰の水曜日は四旬節の始まりです。カトリック信者が祈り、節制と愛の業に励むように教会は他の季節より強く呼びかけます。愛の業に忍耐を持ってやり続けるために祈りは欠かせないものです。十

(次ページへ続く)

平日のミサ時刻：

月曜日・水曜日・木曜日・土曜日 午前7時
 第2水曜日 午後2時30分 子供のミサ(マリア館)
 火曜日 午後7時
 金曜日 午前10時 初金曜日 午後7時
 聖体礼拝： 土曜日 午後5時30分

主日のミサ時刻：

土曜日 午後2時30分
 日曜日 午前8時・9時30分・午後6時
 Sunday:
 9:30 am Mass in English (Maria Kan-Hall)
 第4日曜日 午後2時 ベトナム語のミサ

十字架の道行きもその一つの四旬節の間の大切な祈りです。イエス様の受難を思い彼の苦しみを感じ取る事によってイエス様との絆が強くなりイエス様から力も頂くと思っています。

神は十字架による御自分の素晴らしい愛を示され、多くの人間を御自分の民になさいました。それで割礼などではなく十字架の他に誇るものはないと書きました「ガラテヤ6..4」。私達は額に灰で記されて十字架を受け、パウロと同じように十字架は私達の誇りである事を証しします。さらに十字架の道行きを行う事によって神の愛を噛みしめ、十字架をただ飾りや魔法よけとして使う人と自分の成長も願います。

今年新しい十字架の道行きの祈りが出来上がりました。多くの人が神の愛を体験し、愛の業に励み続ける事が出来るように願いを込めて十字架の道行きを大切にしたいと思えます。



堅信式

2月7日、野村司教様司式の9時半のミサの中で19名の方が堅信の秘跡を受けました。

堅信の秘跡を受けた方々

- | | |
|-------------|-------|
| フランシスコ・ザビエル | 濱口 修人 |
| イグナチオ | 福井 三郎 |
| フランチェスカ | 今枝 佑紀 |
| ラファエラ | 柴垣 泉美 |
| ローマのフランシスカ | 松本 百恵 |
| モニカ | 赤澤 安子 |
| トマス | 秋元 昭二 |
| アンジェラ | 石本 馨 |
| マリア | 神田 勝枝 |
| 小テレジア | 榊原 和子 |
| ウルスラ | 榊原 利恵 |
| ベルナデッタ | 鈴木 慶子 |
| アシジのフランシスコ | 瀧 佳弘 |
| トマス | 玉田 恭彦 |
| マルタ | 林 由里子 |
| ベルナデッタ | 別所 知佳 |
| ローマのフランシスカ | 細野 陽子 |
| ヨセフ | 大塚伸一郎 |
| マリア | 大塚 美玲 |

おめでとうございます。



第九回運営委員会議事録

日時 2010年1月17日
11時20分～12時30分
場所 司祭館一階集会室

○報告事項

1. バザー寄付先一覧表及び災害対策費の使途について
笠原バザー実行委員長から検討資料が示された。災害時の信者及び地域住民の教会避難時の援助方法について、今後検討していくことが確認された。
2. 新成人の祝福について
今年度は、元旦のミサの中で、男子2名 女子1名の新成人の祝福を行った。その後、マリア館1階で、お祝いのパーティーを催した。今後の教会活動に積極的に参加していただきたい。
3. 納骨堂管理委員会より
祭壇や献花台等の整備については、昨年末までに半田教会と細部に渡り打合せ調整することができた。それを踏まえて工事を発注。復活祭までには工事が完了する予定。

4. 墓地管理委員会より
吉田さんの遺言により譲り受けた墓地の名義変更等の手続きが完了。今後の受付業務及び維持管理については、墓地管理委員会にて話し合った。墓地の存在や手続き方法等について今後お知らせする。

審議事項

1. クリスマスについて次年度に向けた申し送り事項の確認
ミサ当番はヨセフ会が中心となり行う。
駐車場規制については、ヨセフ会とボーイスカウトで行う。南山男子部の駐車場を借りできたのはありがたかった。南山小の駐車場は借りなくともよさそうである。男子部駐車場については、今後も借用のお願いをする。そして、男子部駐車場誘導には2名を配置する。さらに、駐車場への入り方を事前にお知らせしておく。パーティーについては、今年度のように、有志で行う形式で、来年度も実

施したい。今年度ご協力くださった方々には、とても感謝しています。

2. 2010年教区年間テーマを受けた当教会の取り組みについて
ミサ中の聖歌の曲番の不統一があったので、来年度はミスが出ないチェック体制を作り、注意する。

3. 来年度予算について
別紙予算案について説明を受けた。不明なことがらについては皆で確認し、承認した。

4. 来年度運営委員について
各会でご人選を進め、運営委員長に報告する。3月7日の運営委員会で最終確認し、決定する。

5. 聖母の子等の会の納骨堂管理について
現第2日赤の前身の結核療養所で奉仕をされていた方々の

納骨堂の管理依頼があった。具体的な管理・補修費等の内容を調査確認をしたうえで、今後の運営委員会で管理を引き受けるかどうか決定する。引き受けるとなった場合には、規約等についても納骨堂管理委員会で今後検討していく。

○各会報告

1、典礼委員会

2月7日が堅信式。日英合同ミサで、祈りをささげる

2月11日 名古屋教区典礼研修会の開催

2、ヨセフ会

1月24日 11時よりマリア館ホールにて、新年会の開催

1月17日までに教会事務所で申込を受け付ける。

3、マリア会

1月15日、初金ミサ後マリア館ホールで新年会を開催した。

参加者62名で、ビンゴ大会やプレゼント交換などで親睦を深めた。

4、中高校生父母の会

2月7日堅信式ミサ後、マリア館ホールにてお祝いのパーティーを開催する。

5、信徒協

3月5日 世界祈祷の日
城北橋教会で開催予定。今回は、カトリックが主催する。
4月29日名古屋教区委員総会



2010年1月24日 ヨセフ会新年会 マリア館ホールにて

愛と苦しみ (その13)

人間の癒しの源であるキリストの受難と復活

B・ノヴァク神父

3・2・3 イエスの自己認識

と自己同一性の発達

「それから彼は彼らと共に下って行き、ナザレに来了。彼は彼らに服していたが、彼の母はこれらのすべての言葉を自分の心にとどめた。そしてイエスは、知恵と背丈においても、また神と人からの好意においても、増し加わっていった。」ルカ 2・51・52

四つの福音書は、イエスの写真というよりも、別の画家が描いたイエスの肖像のようなものです。福音記者たちは、異なる状況に生きていて、異なる問題に直面していた共同体のためにその福音書を書き記しましたので、この共同体にとって特に重要であると思ったイエスの性格の特徴とか、イエスの教えの側面を強調したり、その教えの意味を良く理解してもらうために、順序や表現を変えたりしました。そのために、四つの福音

書において色々な違いが見られませんが、この違いはイエスを知るために妨げになっていいるのではなく、逆にイエスの姿をより豊かにするもので、イエスを知るのに大きな助けとなっています。

マルコによる福音書において、「メシアの秘密」というのがあります。イエスは人々が早すぎて、つまり十分に準備される前に、ご自分が神の子でメシアであるということを知らない方がいいと思っ

て、使徒たちさえ三年間イエスと共に生きて最後までイエスのことを理解していませんでした。彼らは、聖霊を受けて、イエスが復活したという出来事を通して、イエスと共にいた時の体験を振り返って見て初めて、イエスのことが分かりました。しかし、すぐに完全に分かったのではなく、与えられた使命を果たし、分かったことを宣べ伝えながら、彼らの理解が深まっていききました。イエスのことを理解するこの過程は、もうすでに二千年以上続けていますが、イエスのことが完全に分かったと言える人はいないはずで、今でもイエスは神秘的な存在であり続けています。マルコが以上のようにイエスのことを描いていますので、マタイやヨハネと違って彼は、イエスが洗礼者ヨハネから洗礼を受けた後に起こった出来事を、イエスの本性とイエスの使命が公に現された出来事としてではなく、イエスの個人的な体験として描いています。この福音書の中で、神は直接イエスに向かって次の言葉を語ります。「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。」(マコ 1・11、ルカ 3・22) マルコは、この声に誰かに聞こえたのか、イエスの上に降る聖霊を誰かが見たということを書いていないので、洗礼者ヨハネも、周りにいる人たちも、何か特別なことが起こったということに気が付かなかったというように印象を与えています。恐らくマルコは、イエスが公活動を始める前に体験したことをこのように描くことによつて、神をご自分の父として、または、自分自身を愛されている神の子として認識することが、要するに自分の本性を知って、それを自分の最も重要なアイデンティティとすることが、イエスの人生において決定的なことであり、イエスの活動の中に見られる力を与える

ものであったということを伝えようとしていると思います。

イエスは、罪以外に私たちと同じ人間であり(フィリ2・6、

8、ヘブ4・15・16)、わたしたちと同じように成長し、発達して

いたので、地上の人生の初めから自分の本性を知らなかったという

ことを自信を持って言えると思います。そのために、イエスは、自

分が神の子であり、メシアであるということを知り、またはどのよ

うに知るようになったかという問いが根拠のあるものであるだけで

はなく、イエスのことを理解するために非常に大切なことになりま

す。現代の聖書学者の中に、マルコとルカが伝えた言葉によって神

はイエスに彼の本性を現したと考えている人がいます。この学者た

ちによれば、イエスは洗礼を受けた後に初めて、自分が誰であるか

ということと、神が自分に与えた使命を知りました。そのために、

この体験がイエスの人生を変えたと考えています。けれども、その

使命を果たすことが何より重要であると知っていたということを実現したからです。

けれども、自分の本性を知つても、十二歳のイエスは神の子

として生き、メシアの活動を開始するのではなく、両親と一緒にナ

ザレに戻り、後十八年間もヨセフの家に住み、ヨセフの仕事をして

います。恐らく、イエスは十二歳の時に、自分の本性や使命を知つ

ていても、まだ神の子として生きて、メシアの使命を果たすことが

できなかつたと推測することが出来たと思えます。自分の本性を忠

実に生きるために必要であったこと十八年間をルカが次の通り描い

ています。「それから彼は彼らと共に下って行き、ナザレに來た。

彼は彼らに服していた・・・そしてイエスは、知恵と背丈において

も、また神と人からの好意においても、増し加わっていった。」

(ルカ2・51・52)それは、非常に手短い描写ですが、その期間の

本質を理解するために十分です。最初に書かれた準備期間の一つ

の特徴というのは、従順です。それは、両親に対する従順、特に

「恵み溢れる方」への従順でした。この従順は神への従順を現し

ています。ヘブライ人への手紙の発展によってイエスは人間として

成熟して行きました。そして何より

ブ2・8)、この従順のためにこも大切なこととして、段々と神が

求められているような人になり、神との愛の交わりを深め、益々神との

愛の絆を強めていきました。そのよ

うな発達の結果として、イエスは、自分が神の子であると強く自

覚し、それはイエスにとつて最も深い自己認識と同時に最も重要な

身分になったので、神の子と名乗

り、十字架で完成されました。イエスは十字架上で完成されたの

で、その発達は恐らく、死に至るまで続くものであったでしょう。

しかし、洗礼を受ける時にイエスにとつて、マリヤの子であり、大

工であるということよりも、また

は、ナザレの住民であり、ユダヤ人であるというよりも、神の子で

あるという自分の身分が重要になつていたので、イエスは神から

与えられた使命を果たすために、マリヤのもとから、と同時に自分

の仕事と安定した生活から離れることができましたし、ナザレから

追い出されても、他のユダヤ人から異端者として見下されても、こ

の活動を続けることができました

し、最終的に父である神から与えられたこの使命を最後まで忠実に

果たすために、辛い受難と残酷な死を受け入れることができたわけ

です。

ボーイ新春の餅つき大会に挑戦

伊藤 宗太郎

去る正月17日(日)ボーイ恒例の餅つき大会を行った。連日の厳しい寒さにめげず、スカウトたちは早朝続々と教会中庭に集って来た。今回は友団45団のスカウトたちも参加し、30名ほどの子供たちがワイワイガヤガヤと準備をはじめた。カマドに薪をくべ、机をならべて食器をそろえ、ニコニコ楽しそうに走り回っていた。

気温がやや暖やかなためか、餅米の蒸しあがりも早く、タイミング良く9時半のミサ直後にペツタン、ペツタンとつきはじめた。「それっ」とみなさんが臼の前に駆け寄り、餅つきの挑戦がはじまった。小さい子供さんは机の上で木製の臼で、親子仲よくトントンとついていた。

つき終わると、キナ粉、あんこ、大根おろし、雑煮の調理がはじまった。子供たちはビニールの手袋をはめ、小さい手で餅をコロがして、キナ粉をあんこにまぶしていた。

美味そうに口にほおばって食



べはじめたが、餅が喉につかえるのを心配して強力な電気掃除機が巡回していた。司祭館の運営委員会やマリヤ館のお茶の会新年会へも、キナ粉、あんこの宅配も行って大変喜ばれた。正午すぎまでに10臼ついて餅つき大会は大成功であった。教会内に親睦の輪が広がり、ヨカッタ!

カトリック教会のカテキズムより

- 732 「この日(聖霊降臨)、聖三位が完全に啓示されます。この日から、キリストによって告げ知らせられた神の国は、キリストを信じる人々に開かれます。彼らは人間としての弱さを持ちながら、信仰によってすでに聖三位の交わりにあずかります。聖霊はたえず訪れ、世界を「終わりの時代」、教会の時代、神の国に導き入れます。その神の国はすでに始まっていますが、まだ完成したわけではありません。」
- 733 「神は愛です」(一ヨハネ4・8, 16)。神の愛は第一のたまものであり、この愛のうちに他のすべてのたまものが含まれています。この愛は「わたしたちに与えられた聖霊によって、わたしたちの心に注がれて」ローマ5・5)います。」
- 1300 「堅信の秘跡は受堅者に接手して、「父のたまものである聖霊のしるしを受けなさい」といいながら、聖香油を塗布することによって授けられます」。
- 1296 「聖霊のこの証印は、キリストへの全面的に所属、永遠にその奉仕者となったことを示しますが、また、終末の大きな試練に際して神が守ってくださる約束をも表すものです。」
- 1303 「堅信は洗礼の恵みを増大させ、深めてくれます。わたしたちに「アッパ父よ!」と叫ばせる神の子としての身分を強め、深めてくれます。わたしたちをいっそう固くキリストに結びつけてくれます。わたしたちのうちに聖霊のさまざまなたまものを増やしてくれます。わたしたちと教会との結びつきをより完全にしてくれます。聖霊の特別な力を与え、キリストの真の証人として、ことばと行いによって信仰を広め、擁護し、キリストの名を勇敢に公言し、十字架を決して恥じないようにさせてくれます。」

南山句会

平成二十二年一月十三日



メサイアの莊嚴なるや降誕祭

期待せる初夢むなし不眠症

蒼天や長き冬木の影法師

七草をサラダにあしらふ夕餉かな

寒大根みずみずしきを垣根越し

寒林を抜けて弥撒へと常の道

待降節主を待つ心学びけり

縫初や卒寿の母の大らかに

冬薔薇太き地軸に花開く

寒鳥深き杜より翔ちにけり

初弥撒や子等とその子等並び座す

紀子 幸男 佐知子 瑞子 とく子 洋子 せつ子 あき子 光子 ひろし 義子

毎月第一水曜日午後一時半
マリア館一階集会室

信者の消息

受洗

おめでとうございます

Vu Trang Thien Van (ヴチャン ティエン バン)

転出

いつまでもお元気で

使徒ヨネ 加藤正規(まさのり)

受堅信

おめでとうございます

フランシスコ・ザビエル 濱口修人
 フランチェスカ 今枝佑紀
 ローマのフランチェスカ 松本百恵
 トマス 秋元昭二
 マリア 神田勝枝
 ウルスラ 榊原利恵
 アシジのフランシスコ 瀧 佳宏
 マルタ 林 由里子
 ローマのフランチェスカ 細野陽子
 マリア 大塚美玲

イグナチオ 福井三郎
 ラファエラ 柴垣泉美
 モニカ 赤澤安子
 アンジェラ 石本 馨
 小テレジア 榊原和子
 ベルナデッタ 鈴木慶子
 トマス 玉田恭彦
 ベルナデッタ 別所知佳
 ヨセフ 大塚伸一郎

2010年2月・3月度行事予定表

	教会典礼歴	南山教会行事	各会活動	教区行事・その他
2月	17(水) 灰の水曜日(大齋小齋) 21(日) 四旬節第一主日	7(日) 堅信式・祝賀会 21(日) 洗礼志願式	5(金) マリア会例会(懇談会) 7(日) 典礼委員会 10(水) 14:30 子ども部屋 14(日) 運営委員会 27(土) 要約筆記付きミサ	11(木) 典礼研修会 17(水) 四旬節愛の献金(四旬節中) 18(木) 司祭協議会 25(木) 司祭評議会
3月	28(日) 受難の主日	13(土)~14(日) 南山教会四旬節黙想会・共同回心式 28(日) 四旬節「音楽による黙想会」	5(金) マリア会例会(懇談会) 7(日) 運営委員会 10(水) 14:30 子ども部屋 21(日) 教会学校卒業式 21(日) 典礼委員会 27(土) 要約筆記付きミサ (日) 教会学校一日黙想会	18(木) 司祭協議会